

世界遺産白神山地の観光実態と整備の方向性に関する調査研究

秋田高専

○相馬 健太郎

秋田高専 フェロー

折田 仁 典

1. はじめに

観光客の来訪は、交流人口の拡大という課題を持つ地域にとって極めて有意である。本研究で分析対象とした白神山地も、地元地域にとって交流人口拡大の資源として期待されている。このような背景にある白神山地周辺地域では、高速道路整備が進むとともに、観光ガイドの育成といった観光サービスの充実化を図るなど観光の振興に力を入れている。本研究では今後の観光振興策を探る視点から、来訪者の特性、今後の整備のあり方について検討した。さらに、観光振興を阻害する諸問題を DEMATEL 法により構造化し、問題解決ステップの考察を行った。なお、従前から所属する研究室では白神山地の観光実態に関する調査分析を行っており、成果を得ている。本研究では以前の調査分析結果と重複する項目については集計に加え、利用することとした。

2. 調査の概要

本研究で実施した調査は以下の 3 種類である。1.観光実態と観光整備に関する調査（平成 20 年 10 月）被験者は白神山地来訪者である。2.白神山地の観光振興を阻害する諸問題の抽出に関する調査（平成 20 年 9 月）白神山地の観光に関わる地元住民を対象とした。3.DEMATEL 法による白神山地の諸問題の構造化に関する調査（平成 20 年 12 月）被験者は白神山地の地元住民および藤里町役場職員、能代河川国道事務所の行政担当者である。

3. 分析結果および考察

(1)来訪者の特性

観光実態と観光整備に関する調査結果をもとに、白神山地来訪者の特性をまとめると次のようである。図 1 は 2004～2008 年の調査結果をまとめた、来訪者の性別を示したものである。男性と女性の比率はほぼ等しい結果となった。図 2 は同様に 5 回の調査による来訪者の年齢を示したものである。年齢が高くなるにつれて来訪者の比率も上昇していることがわかる。50 代で 27.6%、60～64 歳で 21.8%、65 歳以上は 27.7%と来訪者は 50 代以上の来訪者で全体の 75%を占めており、高齢層の来訪が非常に多いという特徴がみられる。図 3 は同様に調査 5 回分の来訪者の居住地を集計したものである。白神山地来訪者の 70%が県外からの来訪者で占められており、白神山地が他県からの観光客誘因の重要な観光資源となっていることが如実に現れている。

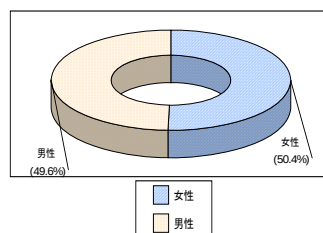


図 1 来訪者の性別

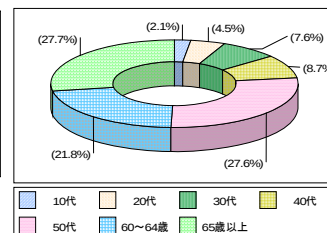


図 2 来訪者の年齢

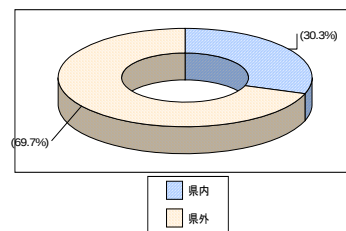


図 3 来訪者の居住地

(2)観光振興を支援する整備案

図 4 は今後白神山地の観光振興を図る上で、いかなる整備を進めるべきか分析したものである。設定した整備案は 12 項目である。分析結果をみると上位 3 項目は「(11) 地域紹介などの白神山地の情報を提供する。」「(12) 白神山地内のガイド育成など白神山地観光を支援する人材の育成を行う。」「(4) 白神山地内の案内標識の整備を行う。」となっている。これら 3 項目は「重要である」という回答が全体の 90%を超えており、非常に注目すべき整備案になっている。これらの項目は白神山地の情報提供に関する問

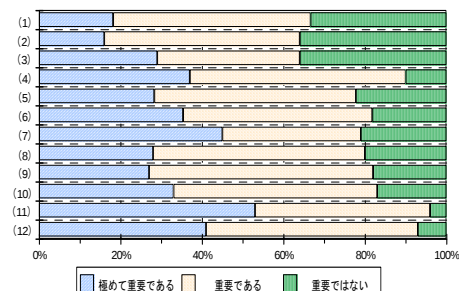


図 4 今後の整備案について

キーワード：観光、世界遺産、白神山地、DEMATEL 法

連絡先：〒011-8511 秋田県秋田市飯島文京町 1 番 1 号・TEL：018-847-6005(代表)・FAX：018-857-3191

題点を示唆しており、来訪者は情報提供が今後の整備において重要であると感じていることが把握された。一方、これに対し道路整備を含む交通環境の改善策は「重要ではない」の回答が多く、白神山地へのアクセスビリティの向上には消極的である。これは白神山地の観光支援のためのアクセスビリティの向上、さらには白神山地の域内での回遊性向上に極めて重要な役割を負担するものであるにも関わらず、来訪者は道路整備が今後の整備において重要だとは認識していない。この背景には昨今問題となった道路特定財源の問題と、道路整備が自然を破壊することにつながっていくのではないかと懸念があるものと推測される。

(3) DEMATEL 法による白神山地諸問題の構造化

図5と図6は三者のアンケート結果を統合し、白神山地の問題について重要度、影響度による平均構造を示したものである。図中の各評価要因間の総合影響の表示は『強』を細線として示している。『弱』は与える影響が小さく、また『中』を加えると図が複雑化するとして省略した。また、各要因間の上下関係は一連の要因のうち、重要度及び影響度の高いほど（最も高い要因を100とする）上に位置し、左右関係は特別な意味を持たない。重要度の平均構造をみると「10.観光資源に関わる情報発信の問題」が最も重要度が高く、次いで「15.観光支援地域ネットワークの整備の立ち遅れの問題」の順となっている。影響度の平均構造では「10.観光資源に関わる情報発信の問題」「14.行政支援の立ち遅れの問題」の順に影響度が高い。設定した15の白神山地の問題において、影響ルートに着目し、整備優先順位の考察を行ったところ次のようになった。「10.観光資源に関わる情報発信の問題」→「15.観光支援地域ネットワークの整備の立ち遅れの問題」→「4.地元特産物開発の不十分さの問題」のステップが考えられる。この問題解決のプロセスにおいては重要度、影響度が極めて高い「10」の項目がポイントになっている。この項目を出発点に「地域ネットワーク整備」「特産品開発」などの整備課題に影響が波及していくと考えられているようである。

4. まとめ

分析からは、白神山地の抱える問題構造が把握されるとともに、効率的な整備優先順位が明らかになるなど多くの興味深い結果が得られた。それらを要約すれば次のようである。

- (1) 白神山地来訪者は団塊の世代を中心とした高齢者の比率が高いことが判明した。また、来訪者の7割が県外からの訪問であった。
- (2) 白神山地来訪者は白神山地の観光振興を図る上で、情報提供の整備が重要であると考えている。一方、アクセスビリティ向上のための道路整備は、情報提供整備ほどの重要性はなく現在の整備で十分であると認識されている。
- (3) 白神山地の抱える問題のなかでは、特に「情報発信」「観光支援地域ネットワーク」が重要視されている。また、「情報発信」の問題は最もはじめに取り組むべき課題と考えられていることが把握された。

【参考文献】

- 1) 折田仁典：社会生活基盤整備効果計測手法に関する調査研究報告書、(社)東北建設協会、1996

※質問項目

- (1) 日本海東北自動車道の早期整備を行う。
- (2) 大館能代空港と白神山地を結ぶ道路整備を行う。
- (3) 白神山地を通過する秋田県と青森県を結ぶ道路整備を行う。
- (4) 白神山地内の案内標識の整備を行う。
- (5) 大館能代空港から白神山地までの公共交通の利便性を向上させる。
- (6) J R 各駅から白神山地までの公共交通の利便性を向上させる。
- (7) 白神山地を散策する、環境に配慮した遊歩道を整備する。
- (8) 白神山地の各見学ポイント間を結ぶ交通手段の整備を図る。
- (9) 地元の宿泊施設を整備する。
- (10) 地元特産品の開発、販売を促進する。
- (11) 地域紹介などの白神山地の情報を提供する。
- (12) 白神山地内のガイド育成など白神山地観光を支援する人材の育成を行う。

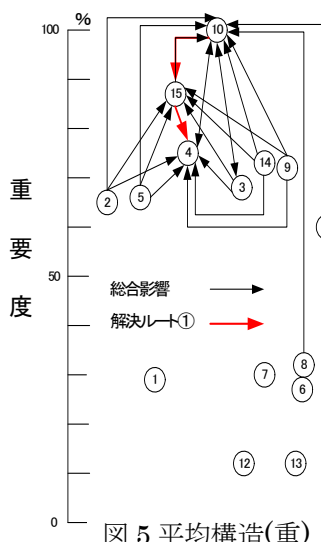


図5 平均構造(重)

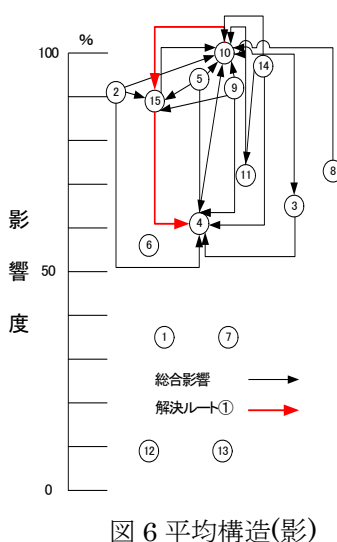


図6 平均構造(影)

表1 設定した評価要因

1. 観光客のマナーの問題	9. 観光情報発信の問題
2. 宿泊施設の不十分さの問題	10. 観光資源に関わる情報発信の問題
3. 観光中核施設の未整備の問題	11. 青森県と秋田県の連携の問題
4. 地元特産物開発の不十分さの問題	12. 入山規制の問題
5. 優秀なガイド不足の問題	13. 世界遺産登録による周辺住民との問題
6. 冬期観光施設の整備の問題	14. 行政支援の立ち遅れの問題
7. 白神山地内の道路整備の立ち遅れの問題	15. 観光支援地域ネットワークの整備の立ち遅れの問題
8. 高速交通体系整備の立ち遅れの問題	